

## 1. コラム「論点提起」：レジリエントな社会の実現や如何

2019年12月7日に中国・武漢市で発生した（実際には、2019年の9月頃から発生していたのではとされる）新型コロナウイルス感染症が、2020年1月23日の武漢市の都市封鎖に至り、1月30日にWHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言、そして、3月31日には「パンデミック（世界的大流行）宣言」を発出した。それから約3年3ヶ月後の2023年5月5日に「緊急事態宣言」の終了が発表された。国内においても、3日後の5月8日に感染症法の「新型インフルエンザ等感染症」から「5類感染症」へ移行するに至り、コロナ禍対応が終了した。

5月19日からは「G7 広島サミット」が開催され、早くもコロナ禍後に向けて、世界が動いている。コロナ禍期には、毎日のようにコロナ禍関連のニュースやレポートが出ていたのが、一気に減少している。その時々のWEB記事へのリンクも切れ始めている。感染情報データの提供サイトもデータ更新停止やサイト閉鎖が相次いでいる。アーカイブサイトとして残して欲しい。Japaの開設した「新型コロナウイルス感染症 特設サイト」<https://japa-fellowlink.wixsite.com/website-2>の各記事をクリックしてアクセスしてもらえば、現時点でのデータ/サイトの残り具合がわかる。

一方で、当事者からの「記録」も出始めている。今後、各分野からの検証的総括記録が出てくることを期待したい。その際には、世界の動きとの比較等をする際のことを勘案すると、「年」の表記を西暦・和暦の併記にして欲しい。政府は、「令和」への元号切り替えに際し、公文書の西暦表記の義務付けを見送っているが、いつまでもそのようなことでもいいのだろうか。

▼秘闘:私の「コロナ戦争」全記録 2021/12/22 岡田晴恵(著) 新潮社 <https://tinyurl.com/2qewa3k9>

▼新型コロナウイルス感染症対応記録 監修 尾身茂 脇田隆宇 2023年3月刊 2023年4月27日WEB公開 [http://www.jpha.or.jp/sub/topics/20230427\\_2.pdf](http://www.jpha.or.jp/sub/topics/20230427_2.pdf)

▼栃木県における新型コロナウイルス感染症対策～前例のない感染症への対応記録～【第1波～第8波】令和5(2023)年4月28日 栃木県新型コロナウイルス感染症対策本部 <https://tinyurl.com/2f393rfa>

今回のコロナ禍で明らかになったことの一つに、現場実態と仕組みのギャップが大きいことがある。上記の栃木県のような現場実態の記録を各当道府県等も整理し、加えて、課題と対策も整理して、公表・アーカイブして欲しい。それらを全国的に俯瞰すれば、日本として、従来の保健所が対象としていた「感染症(速度が遅く発生も稀少な症例)等」ではなく、今回のコロナ禍のように「急速感染拡大」する次なる感染症へ向けて、備えるべきことが明らかになる。

国は、そうした現場実態からの課題に対する「戦略」を考え、包摂的にソリューションする仕組みを確立し、平常時から、非常時の仕組みを検証と習熟のためにも使い込んで欲しい。そこには、当然ながら、情報システムや生成AI等の活用が避けられない。それらの先進技術を活用することで、平常時の医療体制等の革新にも繋げることができる。つまり、「医療DX」である。

常なる感染症発生のリスクに対応可能なレジリエントな社会の実現に向けて、いつまでも、「計画」だけの繰り返しでは先に進まない。100兆円のコロナ対策費を次の時代に役立つ形で残して欲しい。今回のコロナ禍の教訓を忘れずに、学び活かすためにどこまで肚を括れるか如何。